

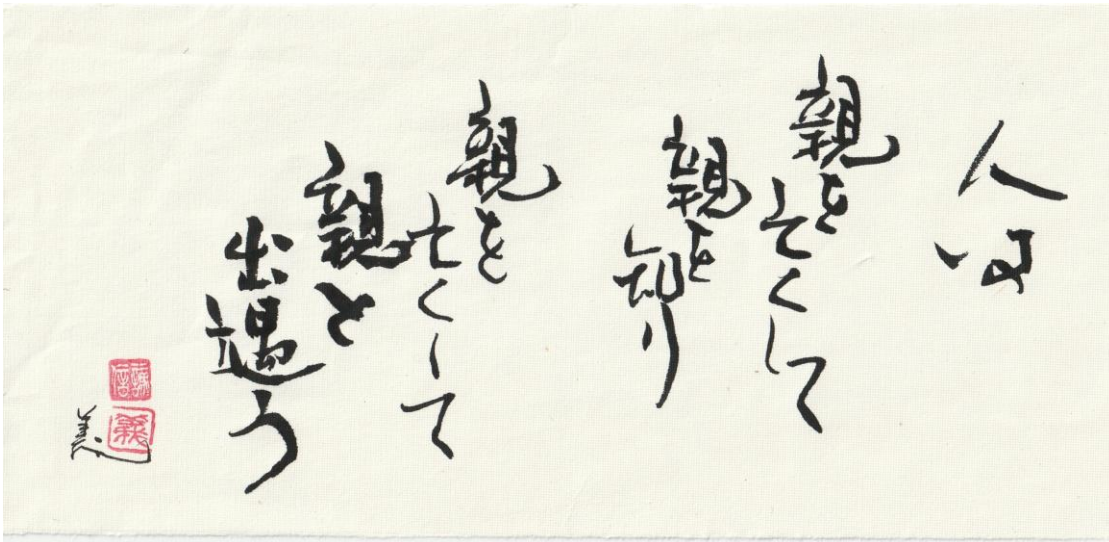


真宗大谷派 存明寺通信

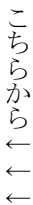
No.199-2

2021年(仏歴2552年)1月1日発行

掲示板の言葉(1月)



存明寺の正印は



出遇い直す

そこにいるのが当たり前だった親を亡くして、初めて親の恩を知ることがあります。亡くしてみなければ、なかなか気がつかないこともあるのです。

その人の遺した言葉、その人の笑顔、その人の悲しみ、その人の願い・・・それらはそう簡単に消えたりはしません。

それらを思い起こしながら、ふたたび亡き人と出遇い直していく。それが残された者の大切な宿題です。そのような道を、ゆっくりといてねいに歩んでいきましょう。

(住職 酒井義一)



親鸞と出遇うお寺

<https://zonmyoji.jp>



# 教えはかならず人に響く

住職 酒井義一



私たちには、たくさんの違いがあります。例えば、名前や顔が違います。年齢や身長も違います。歩んできた人生や、その中で培った考え方、生き方も違います。このように数え上げればきりがありません。たくさんの違いを抱えているのが私たちです。

しかし、意外と同じこともあります。例えば、他のいのちを食べなければ生きていけないということが同じです。それは他のいのちの犠牲の上に私の生が成り立っているということの意味します。また、縁が熟せば悲しみや苦しみを抱えてしまうということも同じで

す。なぜ生まれて生きているのか、それがはつきりとわからないということも同じではないでしょうか。私たちは闇を抱えているということです。そして、老・病・死を抱えているということも同じです。人は病み、古い、そしていつかのちを終えていくのです。

さて本日の帰敬式ですが、それはそのような違いを抱きながら、同じをも生きている私たち人間が、阿弥陀さまという仏さまの世界に帰り、阿弥陀さまを敬って生きていくものとなることを誓う、生涯に一度の大切な儀式です。仏弟子誕生の記念日です。

阿弥陀さまとは、「あなたを見捨てない」「すべてのものを必ず救う」と誓い続けている仏さまです。このコロナという困難な時代の中にあつては、にわかには信じられないことかもしれません。

しかし、阿弥陀さまを「見捨てない」「必ず救う」と受け止めてきた人々の歴史、うなずいてきた歴史は、お釈迦さまから数えると実に二五〇〇年、そして親鸞聖人が

ら数えると八〇〇年というはるかな時が流れています。それはそのことにうなずき、出会ってきた人々の歴史でもあります。その流れは絶えることなく、このコロナという時代にも、ずっと流れているのです。その歴史に、今を生きる私が参加することが、ただひたすらに願われています。

さて少し話は変わりますが、存明寺での帰敬式は今から31年前の1989年に始まりました。その時の受式者はなんと77名。急遽2日に分けての開催となりました。今回は10回目、17名の方々が受式されました。今までの受式者の合計は、232名になります。

法名については、希望の一字を皆さまにお聞きし、初の試みとして、こちらから3つの法名案を提示させていただきました。その中からそれぞれが選んでいただくという形をとりました。記念品の中にそれぞれの法名の意味が書かれてあります。

そのような形でお付けした法名ですが、当然皆違います。違うの

右―勤行 左―剃刀の義



ですが、実は先ほどのお話のように共通していることもあります。

それは、法名は「呼びかけの言葉」「願いの言葉」だということですね。もつと具体的に言えば、「仏さまに、その教えに、その世界に、どうか出会ってほしい、どうか生きてほしい」という願いがかけられているお名前だということは、皆誰もが同じことです。そこが大切なところですよ。

仏さまの教えはかならず人に響くものです。なぜそのようなことが言えるのかというと、響かざるをえないものを皆誰もが抱えているからです。響かざるを得ないものとは何か、それは、先ほどの「同じ」ということの中身です。

他のいのちを犠牲にしている。悲しみや苦しみを抱えてしまう。なぜ生きるのかわからない。

老・病・死を抱えて生きている。「いいえ、私は違う」などという人はひとりもいません。皆誰もがそのようないのちの事実を抱えて今を生きているのです。そのところから仏さまの教えは響いていく

のではないのでしょうか。

先ほど帰敬式をお勤めするにあたり、「表白」を拝読いたしました。

表白とは 今日の日帰敬式の意味を宣言したものです。要約すると、

「困難が満ちている世の中にあつて「見捨てない」「必ず救う」と誓う仏さまの教えを私が受け取り、この世を生きていきます。」という宣言でした。そのような生き方をお互いに実践していきましょう。

最後に、皆さん、このお寺を自らの居場所にしていただきたいと思えます。本日は誠にありがとうございました。（おわり）

### ◆ 表 白



本日ここに、有縁の同朋あい集い、阿弥陀如来のご尊前を荘厳し、帰敬式を厳修いたします。

帰敬式とは、一人ひとりが仏・

法・僧の三宝に帰依し、新しく仏弟子として出発をする、生涯に一度の大切な儀式です。

仏弟子とは、自らの人生を挙げて、仏さまの教えを聞く者となることでもあります。

世の中には今、様々な困難が満ち満ちております。その中を生きる上で、私たちはあらためて、「あなたを見捨てない」「すべてのものを救う」と誓われた仏さまの教えをしつかりと受け取り、親鸞聖人が頭かたにされたあたたかな教えを、自らの拠りどころとして生きていきます。

これからは、御同朋御同行との出会いをいよいよ深め、お寺を自らの居場所とされることを願っています。

本日ここに、仏祖のご照護を願い願ひ奉ります。

2020年11月28日

真宗大谷派 櫻田山 存明寺

第12世住職 法名釋諦信

敬つてもうす

右―法名授与 左―集合写真



## お寺のひろば 2021年(令和3年)

### お寺のひろば 2021

1月1日(金)	10時	修正会 <small>しゆしょう会</small>
3月13日(土)	14時	樹心の会(荒山淳先生) <small>じゆしん</small>
3月16日(火)	13時	おそうじの日
3月20日(土)	11時と13時	春のお彼岸法要 <small>ひがん</small>
3月27日(土)	14時	グリーンフケアのつどい <small>じゆしん</small>
4月10日(土)	14時	樹心の会
4月28日(水)	10時	おみがきのつどい
5月3日(月)	12時	永代経法要 <small>えいたいきやう</small>
5月15日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>
6月12日(土)	14時	樹心の会
6月26日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
7月10日(土)	11時	新盆法要 <small>にいぼん</small>
7月13日(火)	11時と13時	お盆法要 <small>ぼん</small>
8月28日(土)	午後	青年のつどい <small>じゆしん</small>
9月11日(土)	14時	樹心の会
9月17日(金)	13時	おそうじの日
9月23日(木)	11時と13時	秋のお彼岸法要 <small>ひがん</small>
9月25日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
10月9日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>
10月29日(金)	10時	おみがきのつどい
11月2日(火)	14時	報恩講のゆうべ <small>ほうおんこう</small>
3日(水)	12時	報恩講法要 <small>ほうおんこう</small>
11月13日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>
12月4日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
12月11日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>

期日未定 真宗本廟奉仕団(京都・東本願寺)  
 こども食堂・子育てサロン・こども会も  
 工夫をしながら実施していきます。



冬のある日の存明寺

### あとがき

▼『生きる』199-2号(お正月号)をお届けします。

▼新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。世の中には不安やいら立ちが広がり続けています。先が見えない、これがとても辛いことです。

▼そのような中、お寺では9月から活動の一部をインターネットを使って生配信することにチャレンジしています。9月10月は住職の法話、11月は海法龍さん(横須賀市)と田中顕昭さん(長崎県)、12月は稲垣和弘さん(台東区)が法話を届けてくださいました。

▼12月の法話会は、初めてYouTubeを使って、不特定多数の方々に生法話&あとから法話(あとから何回でも聞ける法話、の意味)をお届けしました。

▼実は住職、インターネットにあまり詳しくありません。なので、その道に詳しい人々に訪ねながら、機材をそろえ、失敗を重ねながらやり方を覚え、何とかトボトボと歩んでおられます。「も〜く、わからん!」と、やけを起こしたことも数知れず…。

▼裏側にはそのような実態を抱え

東京都世田谷区北鳥山4-15-1  
 真宗大谷派 存明寺  
 住職 酒井義一(釋諦信)  
 〒157-0061 TEL 03-3300-5057  
 FAX 03-3300-5880  
 E-mail : sakai@zomyoji.jp



ながら、コロナの影響を考えて、しばらくはインターネットでの配信に力を入れたと思っています。実は、新しい企画もありまして…。今年2021年には、その企画もご披露する予定です。

▼さて、次の『生きる』は、記念すべき200号となります。春のお彼岸の時に、拡大版として発行します。『生きる』誌の幻の第1号や今までの復刻版を掲載した記念号とする予定です。どうぞご期待ください。

▼御身くれぐれもご自愛のうえ、とにかく生き抜いてまいりましょう。  
 (住職・釋諦信)